土屋和人

文系PCライターの反省

目次

[初めてのパソコン ３](#_Toc362601171)

[歩いた話 ５](#_Toc362601172)

# 初めてのパソコン

仕事で最初に触ったパソコンは、当時のスタンダードであるＮＥＣのＰＣ‐９８０１シリーズだった（末尾の細かい型番までは覚えていないが）。

メインメモリは、わずか６４０ＫＢ。ハードディスクも搭載〔とうさい〕しておらず、５インチのフロッピーディスクドライブが２基付いているだけ。

ＭＳ‐ＤＯＳのシステムとアプリケーションの入ったディスクをＡドライブに入れて起動し、作成した文書ファイルはＢドライブのディスクに保存していた。

最初に使ったアプリケーションは、一太郎Ｖｅｒ．３。

パソコンの電源を入れたらいきなりアプリケーションが立ち上がるため、その当時は〝ＯＳ〟の存在はまったく見えていなかった。ＭＳ‐ＤＯＳのプロンプトなど、アプリケーションを終了して〝パソコンの電源を切ってもいい合図〟程度にしか思っていなかった（実際、会社の先輩にはそういうふうに教わった）。ファイルの操作もアプリケーションを通して行うため、そのアプリの文書ファイルしか見えず、フロッピーの中にどんなファイルが入っているのかも把握〔はあく〕できない状態。

一太郎Ｖｅｒ．３の場合、文字情報を収めたテキストファイルのほか、書式などの情報を収めた２つのファイル、計３種類のファイルによって、１つの文書ファイルが構成されていた。一太郎のコマンドでフロッピーのファイルを削除しようとしても、通常の設定ではテキストファイルしか表示されないため、選択して削除できるのもこのファイルのみ。一太郎でしか削除の操作ができないレベルだと、そのフロッピーには主を失った文書ファイルの残骸〔ざんがい〕が累々〔るいるい〕と残ってしまい、しかもそんなファイルがあることにも気が付かないわけだ。

その後、ＭＳ‐ＤＯＳのコマンドもいくつか覚え、不要なファイルの削除程度はできるようになったが……今考えると、操作の対象も結果もすぐに見えない状態でのファイル操作というのは、目隠しで料理でもしているかのような怖さがあったように思う。

# 歩いた話

高校を卒業し、大学に入るまでの１年間は、予備校にもいかずに浪人（？）していた。19歳の誕生日を迎えた直後に親元を出て上京し、東京都下の★昭島〔あきしま〕市というところにいた友人のアパートに転がり込んで、毎日アルバイトに明け暮れていた。

アパートの最寄り駅は、西武線およびＪＲ線の★拝島〔はいじま〕駅。当時はもっぱら運賃の安い西武線を利用しており、★高田馬場〔たかだのばば〕からなら、乗る電車を選べば乗り換えなしでいけた。

その頃、西武池袋線の★椎名町〔しいなまち〕駅に友人が住んでいた。バイトが休みだったある日、その友人の部屋へ遊びに行き、夜の10時過ぎぐらいまで話し込んでいた。

明日はバイトだし、そろそろ帰らないと、と思ったが、来たときの経路（拝島→高田馬場→池袋→椎名町）を戻るのはなんだか面倒くさい。所持金もあまりなく、池袋‐高田馬場間のＪＲ運賃ももったいない。同じ西武線なのだから、池袋線の側から回っていって、乗り換えて拝島までいく方法があるのではないか、と考えた。

椎名町駅で路線図を見ると、★所沢〔ところざわ〕のあたりから線路がつながっていて、なんだかいけそうな気がする。そこで、池袋方面ではなく所沢方面の電車に乗り、所沢駅で乗り換えて……

……着いたのは★飯能〔はんのう〕駅だった。

言うまでもなく、電車を乗り間違えたわけだ。今はどうなのか知らないが、その時は、所沢駅の乗り換えの案内が非常にわかりづらかった記憶がある。電車自体、それほど乗り慣れてもいなかった。

さらに、着いた時点ですでに所沢方面への終電は出てしまい、引き返すこともできなくなっていた。もちろん、タクシーに乗るお金もない。結構寒い時期で、始発まで待てそうな店も場所も見当たらず。

しかも、そのときやっていたバイトは道路工事の交通整理で、必要最小限の人数でシフトが組まれていたため、休むわけにもいかない。仕事が始まる時間もかなり早かったので、始発まで待っていたのでは、おそらく間に合わない。

飯能から拝島。

果たして歩ける距離なのか、そもそもどっちの方角へいけばよいのかもよくわからないまま、とにかく歩き始めた。

当時はまだ24時間営業のコンビニも少なく、地図を立ち読みすることもできない。あったとしても、そこで何か買えるほどの持ち合わせもなかった。ただ、深夜まで営業していたガソリンスタンドで道を聞いたら、同情したスタンドの従業員が缶コーヒーをおごってくれた、ということもあった。

それからほぼ一晩かけて歩き通し、何とか部屋までたどり着いたときには、もう夜が明けかかっていた。当然、一睡もしていないうえに、全身★疲労困憊〔ひろうこんぱい〕。とてもバイトになどいける状況ではない。また、そんな状態で交通整理をするのは、かなり危険でもあると思った。

バイト先に電話をかけ、さすがに正直に話すのは恥ずかしかったので、「風邪で熱があるので休ませてください」と言ったのだが……

急なことで交代要員も確保できなかったらしく、上司の社員が部屋まで押しかけてきて、根拠もなく「大丈夫、大丈夫」などと言いながら、半ば強引に連れ出されてしまった。

結局、その日はそんな状態で、１日交通整理をする羽目になったのだった。